

演奏に
役立つ

One Point Lesson

SAXOPHONE

サクソフォン

田端直美

たばた・なおみ



- ◆出身 埼玉県立伊奈学園総合高校、東京芸術大学・大学院
- ◆所属 大阪市音楽団
- ◆趣味 骨董市、古本屋めぐり
- ◆血液型 O型
- ◆星座 おうし座
- ◆読者にひとこと いつも心に音楽を!
- ◆手紙の送り先 BJ 気付
- ◆ブログ <http://naomisax.exblog.jp/>

アーティキュレーションは T.P.O. をわきまえて!

街全体がクリスマス一色になって、心躍る季節がやってきましたね! 心はホカホカ、でも体は寒さでコチコチ(>_<)というわけで、練習前には軽くストレッチをして体をほぐしましょう。まずはゆっくり首肩腰腕を回しますが、タバタは数年前フラメンコに夢中だった時期があって、そのときに習ったステップをやりまします。そうすると体も暖まるし、リズムも体感できるので一石二鳥!

みんなもメトロノームを好きなテンポにかけて、ステップを踏んでみましょう! テンポに乗ってステップを踏む場合、必ず前1拍で足を上げないと、ジャスト1拍目に足を下ろせないですよ? そのリズムに乗る感じを体でつかめればしめたもの。では本題へ!

■「アーティキュレーション」って何?

アーティキュレーションには音をつなげたり分けたりする役割があって、つなげるほうの代表には「スラー」「レガート」、分ける代表には「スタッカート」「アクセント」「テヌート」などがあります。しかしみなさん、この見慣れた記号を見たとき、毎度同じようにつなげたり切ったりしていませんか? それはダメダメ! 音符をどう吹くかは、時(Time)・場所(Place)・状況(Occasion)によって変わります。だって、ふだん友達同士でしゃべるときと、改まった場で目上の人と話すときでは、話し方は変わりますよね? (変えないとだめヨ)

同じように、音符の吹き方もテンポ・音量・曲想など場面に沿って変えていかないと不自然です。表情豊かな音楽にはならないのです。というわけで、それぞれの意味と吹くときのコツを挙げていきましょう。

■各種アーティキュレーションの意味と実践

まずは音をつなげるものから。

スラー (音と音をつなげて)



出だし以外はタンギングをつけずに一息で。プレスが必要な場

合も流れの中で素早くとりましょう。

レガート (音と音をつなげて、なめらかに) スラーと基本的に同じですが、より滑らかさが要求されますので、音と音の間を埋めていくような流れのある息が必要。オクターヴキイをまたぐ跳躍はレガートがかりにくいので、しっかり息圧を入れること。レガートの始めは極力アタック音をなくして最後の音処理を丁寧に。発音に細心の注意が必要です。

次に音を分けるものですが、決してタンギング中心で吹いてはいけません! 息のスピードとシラブル (発音) を変えて吹くのです。はっきり吹こうと力んで、下あごをかみすぎるとサウンドが硬くなるので注意!

スタッカート (その音を短く、音と音を切り離して/「切る」「跳ねる」「飛ばす」など、その種類は場面により千差万別。くさび型スタッカートは点のスタッカートより鋭く)



軽いスタッカートは軽くコンパクトな息を、スイカの種を吐く



ような「プッッ」というシラブルで、舌先で軽くタンギング。

キッパリしたスタッカートは速くコンパクトな息を、「トゥッ」というシラブルで。舌は一瞬きっちりつくが、面積をつきすぎるとぺんぺん言うので注意。

アクセント (はっきりと、強調して/これも千差万別。山型アクセントは普通のアクセントよりもっと強調する意味)



軽いアクセントは音のスタートを狙って息の速度をあげます。



ロウソクを一瞬で吹き消すくらい

の息の速度が必要、「ティン」というシラブル。速い曲や短い音の場合はすぐ抜いて。重いアクセントは音のスタートを狙って息の速度をあげ、息の重さや量も充分に使ってから抜く「トーン」というシラブル。より明確にしたいときは「ターン」というシラブルで。

テヌート (音を十分に保って/しかし、その音をキープするのではなく、音のテンションを上げてゆくイメージで。テヌートで緊張を高めて、次の音で解放する場合も多い)



音のスタートを狙って、深く暖かい息を充分に入れる。「トーン」というシラブル、速い曲では「トゥーン」。

お次は変則パターンです。

スラースタッカート (両者のどちら寄りにするかは場面による)



スラーの塊を一息でつなげつつ、軽いスタッカートで残響をつけながら吹く。「ティーン」と軽いスタッカートのシラブルで響きを残して。

スラーテヌート (これも場面次第)



スラーの塊を一息でつなげつつ、一音ずつ念を押すような息をさらに入れる。「トーン」というシラブルはテヌートと同じ。

スラーの後スタッカート (2音つなげて、後の2音を跳ねる)



スラーの終わりの音で息のスピードを上げて、次のスタッカートの勢いをつける。「タラタタ」では重いので、「ティヤッパッパッ」「ピーヤッパッパッ」のシラブルで。

■まとめ

これらを参考にしつつ、T.P.O. に合った表現を見つけてください。しかーし! **音楽でいちばん大切なことは「何を表現したいか」。** 喜怒哀楽・悔恨・愛などの言葉にできない感情、絵に描ききれない美しい情景や自然、人間の力の及ばない何者かに対する畏怖の念、万物への感謝の気持ち——それらを音で表現すること——これが大事な! 形にとらわれすぎず、「こう吹くんだ!」という意志を持って演奏してくださいね。不明点があれば、タバタのブログまで質問を。ではまた来年!